

宮崎医療生協

居宅介護支援事業所「れいんぼう」紹介



<居宅介護支援事業所とは>

居宅介護支援事業所は、ケアマネジャー（介護支援専門員）を配置している事業所です。ケアマネジャーは、介護が必要な方がご自宅でその人らしい生活を送ることができるように、ご希望や心身の状況を確認しながら、適切なサービスを利用できるよう、ケアプラン（居宅サービス計画）を作成します。また、介護保険の申請の代行や介護サービス事業者、関係機関（病院や行政など）との連絡・調整などを行います。

第1表 居宅サービス計画書(1)		作成年月日	年月日()
利用者の氏名	姓 生年月日 昭和 年 月 日 住所 宮崎県宮崎市	初回・紹介・更新	認定済・申請中
居宅サービス計画作成者氏名	姓 生年月日 昭和 年 月 日 住所 宮崎県宮崎市		
居宅介護支援事業者・事業所名及び所在地	居宅介護支援事業所れいんぼう 宮崎市和知川第2丁目2-5-1		
居宅サービス計画作成(変更)日	平成30年09月18日 初回居宅サービス計画作成日 平成27年03月12日		
認定日	平成30年02月15日 認定の有効期間 平成30年03月01日 ~ 平成32年02月29日		
要介護状態区分	要介護1 ・ <要介護2> ・ 要介護3 ・ 要介護4 ・ 要介護5		
利用者と家族の意思に対する意向	本人：楽しんでサービスを利用しています。ヘルパーさんや訪問看護師さんに訪問してもらいながら、自宅でずっと生活していきたい。 家族：安定した生活を送ることができており安心しています。引き続き、日常生活全般の支援を受け、健康で元気に生活していきたいです。		
介護認定審査会の要否及びサービスの種類等	ケアプランに添付する居宅サービス計画については、複数の事業所の紹介を求めることができます。 介護認定審査会がケアマネジャーの氏名等を入院医療機関へお伝え下さい。 居宅介護支援事業所れいんぼう 居宅サービス計画 連絡先：24-8538		
監督官の職務の方針	4～5年前から徐々に肩こり等の症状が認められ、増強してきていた。このことあり、ADLの低下も目られる。平成27年2月1日目に右下肢の浮腫より遠出が認められ、皮膚科を受診し、処置が必要との診断で、夜間頻尿にて訪問看護による処置を受けた。また、訪問看護利用により定期的なバイタル測定を実施していたが、同時に右下肢の浮腫も目られるようになった。今後、定期的なバイタル測定を行い、健康状態や症状の経過を図ることができるとともに、生活面や入浴や排泄等の身体面等の日常生活全般に支援していきます。 <緊急連絡先> 家族 主治医 訪問看護		
生活機能中の中心的課題	①一人暮らし ② 家族等が障害、疾病等 ③ その他()		
関係機関	居宅サービス計画(1)について説明を受け、内容に同意しましたので支障します。	説明・同意日	年 月 日

居宅サービス計画書(例)

<利用者の事例紹介>

90歳代のご夫婦の事例です。お二人は、共に介護が必要な状態となり、食事や入浴も満足にできず、自宅に引きこもって生活していました。地域包括支援センターを通して相談をいただき、デイサービスの利用を提案。リハビリや入浴の支援を受け、外出や入浴もできるようになりました。食事は宮崎市が行う生活支援配食サービス事業の手続きを行うことで夕食の宅配を受け、栄養管理もできるようになりました。必要な支援の提供で、お二人は自宅での生活を続けることができるようになりました。



利用者宅での面談 *写真は事例紹介と異なります。

<居宅介護支援事業所れいんぼうの役割>

居宅介護支援事業所れいんぼうは、男性3名、女性3名、計6名のケアマネジャーで運営しています。内、5名は主任介護支援専門員の資格を所有し、より質の高いケアマネジメントを提供できるように、日々研修会への参加や利用者のカンファレンス、学習会を開催し、質の向上に努めています。
*主任介護支援専門員とは、5年以上の実務経験があり一定の研修を受け、県が認定した介護支援専門員です。



6名のケアマネジャー

<国や自治体への要望>

宮崎医療生協は、医療や介護の社会保障制度の充実を求めています。高齢になっても誰もが安心して生活できる、過ごせる社会を目指して私たちは運動を続けたいと思います。また、介護現場は慢性的な人手不足が大きな課題です。その要因としては、他の産業と比較して労働条件(特に収入面)が劣悪であると言われています。「介護」という社会にとって必要な業務に誇りをもって取り組むことができるような社会を希望します。
(居宅介護支援事業所れいんぼう所長 落合邦博)



みんなの声

◎みんなで開院した“生協クリニックのべおか”が10周年。毎年の特定健診、デイサービスの演芸などで訪問しています。(延岡市Tさん男性)

虹の声 宮崎生協病院虹の意見箱

11月度宮崎生協病院利用委員会

◎自動精算機を利用しても処方箋を会計で受け取るのは二度手間である。職員が金銭を扱いたくないという意図であるなら患者に負担を増やす対応であり、すぐにやめて欲しい。

○会計窓口の混雑を避けるために自動精算機を設置しております。どちらをご利用になられても大丈夫ですが、混雑時に多くの患者様が会計窓口をご利用になれますと更なる待ち時間が発生致します。状況に応じたご利用をお願い致します。



今、宮崎医療生協は		2018年12月末現在	
■新規加入者	153名(12/1～12/31)	■総組合員数	50,234名
■出資金	5億8,175万円	■平均出資金	11,581円
■班数	307班	■おげんきでさか手配り配布数	20,721部

<審議・決定事項>

- 12月度の組合員増やしは153名(目標124名)、出資金増資は630.3万円(目標418万円)。班づくり0班、班会開催76回でした。また、「健康づくり委員長会議」、「九州沖繩組合員活動交流集実行委員会」の報告、健康チェックサポーターの育成、健康ウォークの準備状況の報告もありました。
- 平和と社会保障を守る取り組みについて、「辺野古基地建設土砂投入」(沖縄県県民投票)、「福島原発自主避難への賠償確定」、「原力力関連79施設廃止に1.9兆円」、「社会保障削減自然増1200億円圧縮へ」、「新田原基地米軍受け入れ整備費114億9300万円」、「宮崎市歯科受診の呼びかけ」などについて意見交換しました。さらに「辺野古新基地建設工事の中止と普天間基地無条件撤去を求める署名」、「75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する請願署名」に引き続き取り組むことを確認しました。また、「消費税を10%にさせない署名」は今後提案する予定です。
- 11月の法人の経常利益は207.2万円(予算差▲1,498.8万円)、累計では4,052万円(予算比62.1% 予算差▲1,205万円)の到達でした。
- おおつか生協クリニックの業務監査報告がありました。
- れいんぼう会館の改修にともなう長期借入金について提案がありました。

<報告・承認事項>

- 12月度事業所活動について。
- 12月度医療安全管理委員会について。
- 12月度宮崎生協病院利用委員会について。
- 12月度県連介護事業所責任者会議について。
- 12月度経営協議会について。
- 第29期第12,13,14回常務理事会について。
- 宮崎民医連第10期第8回理事会について。
- 県社保協第7回幹事会について。
- 人事について。
- 宮崎生協病院周辺の安全対応(中間報告)について。
- その他
- 以上、報告承認しました。

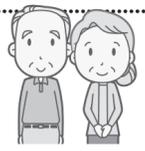
2019年1月度理事会の報告(1月12日開催)

「高齢者の生活実態アンケート」を実施

二人以上の世帯と単身世帯を合わせた総世帯のうち、世帯主が高齢者(65歳以上)の無職世帯の平成24年度の1世帯当たりの1ヶ月の家計収入(税込み収入)は月平均約18.6万円。一方生活費などの消費支出と税金などの非消費支出を合わせた支出は、寒冬・猛暑による冷暖房の需要や水光熱などが増えたことから前年に比べ5千円増加し、月平均22.6万円となりました。その結果、家計収入は約4万円の赤字となり、不足分は貯蓄金などで賄われています。(総務省統計局が実施している調査の結果から)アンケートを通して60%以上の方が、3万円以上の増収を望んでいました。

<アンケート項目>

- 年齢を教えてください
- 主たる収入は何ですか
- 月平均の収入(年金・勤労収入などを含む)を教えてください
- 1年前と比べて今の生活を教えてください
- 1年前と比べて収入はどうなりましたか
- 家計の中で負担が大きいと感じる項目は何ですか。3つ選んで○をつけてください
- 家計の中で節約している項目は何ですか。3つ選んで○をつけてください
- 月々の家計の状況を教えてください
- いくら収入が増えれば、生活(家計)は楽になりそうですか。必要最少額を教えてください
- 生活のなかで心配なことは何ですか。3つ選んで○をつけてください
- これからの暮らしに向けての意見や要望を聞かせてください



◆アンケート数

60歳代：72名 70歳代：201名 80歳代：76名 90歳代：12名 《合計：361名》

◆アンケート結果(全体を通して)

- ◎主たる収入は、年金のみが277名で、全体の76.7%でした。
- ◎月平均の収入は、11～15万円が93名(全体の25.7%)、16～20万円が88名(全体の24.3%)、6～10万円が74名(全体の20.4%)の順でした。
- ◎1年前と比べて今の生活は、「変わらない」が209名(全体の57.8%)、「少し苦しくなった」が101名(全体の27.9%)でした。
- ◎1年前と比べて収入は、「減った」が172名(全体の47.6%)、「変わらない」が174名(全体の48.1%)でした。
- ◎家計の中で負担が大きいと感じる項目は、食費、水光熱費、年金・保険料、医療費を多くの方が感じていました。
- ◎一方で、家計の中で節約している項目は、食費、被服費、水光熱費、教養娯楽費、交際費の順でした。
- ◎月々の家計の状況は、249名(全体の68.9%)の方は、何とかやりくりして生計を立てています。
- ◎「いくら収入が増えれば、生活(家計)は楽になりそうですか」の項目では、5万円以上が131名(全体の36.2%)、3万円が91名(全体の25.2%)を占めました。
- ◎生活のなかで心配なことでは、「健康の問題・病気や介護」が圧倒的に多く、温暖化による「自然災害」、2019年10月開始予定の「消費税増税」も生活に結びつく問題として、多くの方が心配していました。

◆これからの暮らしに向けての意見や要望(抜粋)

- 一人所得になっても、安心して暮らせる社会を(70歳代)
- 消費税が10%、高齢者医療費負担が2割に引き上げられれば、今後の暮らしに不安を感じます(70歳代)
- 年金は減少するのに消費税が上がると、ますます暮らしが困る。もうこれ以上節約できません(60歳代)
- 医療費、介護保険、国保税は上がり年金が減っているのに物価は上がる。その分高齢になっても働かなければならないが、就労の場が少ない(70歳代)
- 国民が等しく健康で豊かな生活が送れるような政治を望みます(70歳代)

◆アンケートを通して

アンケートを通して、高齢者生活の実態、暮らしに向けての意見や要望を把握することができました。すべての高齢者が住み慣れた土地(環境)で、安心して過ごせる暮らしづくりを目指し取り組みます。
(宮崎県高齢期運動連絡会事務局 田中裕人)

おげんき仲間へ配布協力員紹介

都北支部の若宮洋子さんは、支部の運営委員として仕事をしながら頑張っています。趣味は料理や山登りなどで、誠実で気さくなお人柄です。支部行事の司会、組合員つどいのバザーでは手作りのお菓子など好評で喜ばれています。またコブみやさき都北店の健康チェックにも協力されて頼りにされています。班会では、いろんな話題で盛り上げてくれます。これからも支部活動と一緒に前進させてためにも宜しくね。(都北支部運営委員会)

《お問い合わせ》組織部0985・31・6065

おげんきですぞ文芸欄

（俳句） 福田登喜子(新富町在住)

十九の娘笑みて手を出すお年玉

波頭洗濯岩を洗う春

多くの人たちに聞いて欲しい「憲法学習会」

まちづくり委員会では、12月11日(火)宮崎医療生協本部会議室にて、憲法学習会を行いました。講義を聞くまでは「憲法九条は日本の宝だね」と言いながらも詳しくは知りませんでした。講師の森崎志津子さん(綾絵本の会「まんまる」代表)は自作の紙芝居やパネルを使って、憲法の大切さや必要性を分かりやすく話されました。

憲法九条だけではなく、安倍首相は今の憲法そのものを自民党草案でうまく変えようとしています。「憲法は国民のためにあるものです」安倍首相が考えている戦前体制の憲法になったら大変です。私たちができることは署名等を通して「憲法を守る」活動です。ねばり強く今の憲法の大切さを訴え続けましょう。多くの人たちに聞いて欲しい学習会でした。

(東部支部 長友征子)